

# 処理対象量の見直しについて (平成26年7月)

## 1. 豊島廃棄物等の処理対象量の推計結果

- 平成24年度末の見直しでは、体積は約63万2千 $\text{m}^3$ 、重量は約91万トンでした。また廃棄物の密度は、1.42でした。
- 平成25年度末までの処理済量は、体積は測量により約46万7千 $\text{m}^3$ と、重量は直島の中間処理施設等での計量により約66万5千トンと計測されました。その結果、処理済の廃棄物の平均的な密度は、1.43となりました。
- 残存廃棄物の密度も1.43と推定して、見直したことなどにより、処理対象量全体は、体積が5千 $\text{m}^3$ 、重量は9千トン程度増加し、約91万9千トンの見込みとなりました。

【今回の推計結果】(平成26年3月現在)

項目	体積(千 $\text{m}^3$ )	重量(千トン)	密度(トン/ $\text{m}^3$ )
処理対象量	638 (632)	919 (910)	—
廃棄物等	598 (588)	852 (835)	
処理済量	467	665	1.43 (1.42)
残存量	131	187	
直下汚染土壌	40 (45)	67 (75)	1.68 (1.68)

※括弧内の数字は、前回推計時(平成25年3月現在)のものである。

## 2. 処理期間

- 処理対象量全体の重量が増加するものの、処理の効率化を図ることで、平成29年2月に廃棄物等の処理が完了する見込みです。

今回の調査結果による処理対象量等については、現段階での推計であり、掘削が完了しないと量は確定しないため、今後増減する可能性があります。

## 3. 今後の対応

- 県では、今後、次のとおり対応します。
  - ①引き続き、毎年、測量調査を実施し、年度末の残存量について、体積ベースでも把握するなど、より正確な進行管理に努めます。
  - ②豊島廃棄物等管理委員会の指導・助言を得ながら処理量アップ対策に努めます。